

宮城県女川町に職員を派遣しています 日々変わる町の姿に感じる復興の進み

上下水道局では平成23年8月から東日本大震災の被災地を支援するため、女川町に職員を派遣しています。今回は、平成29年4月から30年3月まで派遣された下水道技術課の黒代技師のコメントを紹介します。



下水道技術課 技師
黒代 知生

平成29年4月から30年3月までの1年間、女川町役場建設課水道係で、復興事業に係る災害復旧事務手続きや維持管理業務に携わりました。

女川町に着任してまず、工事の規模に驚きました。津波の被害により浸水した区域を全体的にかさ上げする工事が町内の複数の場所で行われており、町内が日々変わっていく姿に、復興の進みを感じたのを覚えています。私が携わっていた水道の工事も、造成工事に付随して行っており、水道施設の整備も日々進んでいます。建設課水道係は私を含めた4人で主業務を行っていたので、派遣職員の果たす役割はとても大きく、日常の維持管理業務から国庫補助金に関する事務手続



にぎわいをみせるシーバルピア女川(女川駅周辺)

きなど幅広い業務をさせていただきました。

私は女川町に派遣されるまで上水道事業に携わったことがなかったので、知識、経験が不足していましたが、現地職員の方々が懇切丁寧に教えてくださり、支援として来ている身でありながら、多くの面で助けていただいたなと感じています。また、職員の方をはじめ、派遣で来ていることを知った住民の方や地元の土木業者の方などから、感謝の気持ちをいただくことも多く、見知らぬ土地で慣れない業務に携わる中で大きな励みになりました。

今後も震災復興は続きますので、女川町の復興を願い何らかの形で支援していきたいと思います。

女川の今



下水道技術課長
中澤 栄二

平成30年1月16日に、派遣職員の職場状況の把握も含め、女川町へ視察に行きました。平成23年度より、阪神支援チーム(西宮市・宝塚市・川西市・猪名川町合同)の一員として、今までに12人(平成29年度末時点)の職員を被災地に派遣しており、今年度も引き続き1人を派遣しているところです。

甚大な被害を受けた町は、急ピッチで復興まちづくりを進め、駅前商業エリアを中心に、新しく生まれ変わりました。

また、インフラ整備は施工の最終段階まできており、これまでめざしてきた町の姿がようやく形になってきていると感じています。インフラが壊滅的なダメージを受けた震災直後から、全国から寄せられた多くの支援のもとに復興が進み、派遣職員をはじめ、町復興の一翼を担ってきた皆さんに敬意を表したいと思います。

今後も事業完了にむけて、一日でも早く復興が進むように、引き続き川西市も支援していくとともに派遣している職員には町のために尽力してもらいたいと思います。